

国立感染症研究所・病原微生物検出情報 (IASR) でも紹介されましたが、米国における硬膜外ステロイド注射（酢酸メチルプレドニゾン）による真菌性髄膜炎アウトブレイクが注目されています。本製剤の汚染により 2012 年 9 月から 2012 年 12 月まで 620 人の患者数と 39 例の死亡例が報告され、2013 年 10 月には患者数 752 人(20 州)、死亡者 64 人に達しています。起因菌は *Exserohilum rostratum* という真菌で腐葉土や水中など環境中に広く存在する黒色真菌です。これらの患者の髄液(CSF)中には *Candida* 属や *Aspergillus* 属と同様に微量の(1→3)- $\beta$ -D-グルカン(BG)が検出され、培養法や PCR と比べ簡便かつ高感度な検出法として早期診断に有用との成績が示されました (CDC の Dr. Litvintseva らの報告; Clin Infect Dis. 2014; 58(5):622-30)。本研究に使用された血中 BG 測定キット Fungitell (Associates of Cape Cod 社、マサチューセッツ州) は、2004 年に FDA 認可を取得、米欧の各種診療ガイドラインに掲載、わが国における Fungitec-MK と同様に、深在性真菌症の血清診断 (補助診断) に広く用いられています。最近、St. Joseph Mercy 病院 (ミシガン州) の Dr. Malani が、233 例の患者を用いてさらに詳細な検討を進めた結果、Fungitell はその高い臨床的感度(96%)と特異度(95%)により、汚染薬剤による真菌性髄膜炎の早期診断と治療効果の判定に有効であることが裏付けられました (J Clin Microbiol. 2015; 53(3): 799-803)。今後、CSF 中 BG 測定のバリデーションが確立され、血中 BG 測定に加え米欧の診断基準、ガイドラインに掲載されることが期待されます。